

議長(竹島貴行君) ただいまの出席議員数は8人です。定足数に達しておりますので、休憩前に引き続き会議を開きます。

2番 塩原 勝君。

2番(塩原 勝君) 質問いたします。

舟橋村は面積で「日本一小さな村」ということになっておりますが、小さいということでは自慢にならないと思うわけであります。内容が充実している面で日本一であればいいわけであります。ですから、これからも大きな夢を持って、そして計画を立てて進んでいきたいものだというふうに考えておるわけであります。

面積が小さいということであれば、当然ながら、いろんな史跡・名所も少ないわけであります。また、いろんな施設とか設備も、そんなに立派にするわけにもいきません。しかし、現在のままでいいかということ、いろんな課題もたくさんあるように思っております。

この舟橋村ですが、文化財として富山県で指定されているものはたった一つ、無量寺の本尊があるだけであります。じゃ、そんなに何もなにかということ、やはり過去にもあったし、現在もあるというようなものもあるわけですから、といたしますと、竹内の新名所は、私は、前も後ろも四角い前方後方墳というふうに思っておりましたが、一昨年ですか、県の埋蔵文化財センターの研究員に図書館で小さな講演会をやってもらいましたところ、これは前方後方墳だと思われる。ただ、形が相当崩れた古いものであるというお話。ついでに言っておきますが、何度か図書館主催で小さな講演会をやりましたが、そんな中でもずば抜けて私としましては興味、関心が持てる内容でありました。舟橋村の埋蔵文化財を中心に幾つかのものを持ってきていただき、そしてまた戦後の舟橋村の移り変わりが本当によくわかる話であったわけで、今度、何かの機会に埋蔵文化財センターの研究員中心に舟橋村のいろんなことをまとめていただけたらいいなというふうにも考えております。

それから、仏生寺城、これもなかなか立派なものだったと聞いておりますが、そしてまた、舟橋村としては、白岩川が改修される前は非常に清水堂のほうから竹内の近くまで大きく蛇行していて、そして湖沼と言えればいいですか、沼や小さな湖みたいものがたくさんあって、それにかかわる伝説等もあったわけであります。「松田の涯」などと言われたんでしょうか。それから、「ばんどり騒動」の決起集会が行われた無量寺。そしてまた、無量寺にかかわる伝説等もいろいろと舟橋村にはあるわけですが、残念ながら、こ

これらのものはあまり映像とか、あるいは音声などの案内板もなかったり、そしてまた、まとめられていないと。

かつての教育長の館鼻先生が出されたものではある程度詳しく書いてありますが、それでも一般の人たちはそんなには知っておられないのではないかなというようなことも考えるわけであります。

それから、カモシカが図書館に入ったということも話題性が高くて、これをもとに絵本もできましたが、もっと何かあればいいなというふうにも考えております。

そういったことで、それらの内容がわかるような案内板みたいのものも、現在の段階ではまだないわけです。そしてまた、先ほど言いました埋蔵文化財のことにつきましても、今までに基盤整備とか、あるいは住宅の関係でいろいろと試掘をやり、そして本調査が必要な場合には県の埋文の人たちにお願ひし、そしてその費用はもちろん開発する業者にお願ひしながら、そしてそこから発掘された物はいいますと、役場、あるいは県の埋蔵文化財センターのほうで保管されているだけという形になっております。

教育委員会としては、発掘ごとに教育長の巻頭言をもとに、ほんの薄っぺらい冊子に内容をまとめてきたわけでありますが、どっちかというところ、一般の人にはちょっと見ても、文字で書いてあるだけですから関心が低いだらうというふうには思われます。しかし、先ほど言いました埋蔵文化財のほうでは、かなり舟橋村の発掘された物も研究してまとめておられます。

そういったことで、舟橋村はどこを掘っても埋蔵文化財があると言われるようなところでありまして、それだけに、各時代において舟橋村は災害も少なく、水の便やその他のことで人が常に住みついていて繁栄していたところというふうにも思えるわけですが、残念ながら、特別な物が出ているわけではありません。しかし、これらのやはり調査、記録、あるいは保管、そういったようなことを考えていく場合に、どこかで解説をつけて陳列できたらいいなというようなことも考えるわけであります。

いずれにしても、人口も3,000人を超え、芸術や文化に熱心な方もたくさんおられるわけで、ほかのところを見ますと、歴史資料館とか博物館、美術館、文化ホール、その他の文化的なものもたくさん持っておられます。小さいから持たなくていいというのではなくて、やはり夢を持って、いつかは整備していくというようなことが必要であろうというふうに考えているわけであります。

一方、スポーツとか体育ということについてはありますが、やはり人口が増加してき

て学校の生徒数も増え、仮に言いますと、中学校の体育館も部活動や何かで結構、よく土日でも使われます。テニスコートあたりも、なかなか混雑するくらい使われております。

ということは、いろいろと社会体育で利用する場合でも順番待ちと申しますが、調整しないとなかなか思うようには利用できないと。すなわち、制限・制約を受けるわけがあります。村民も増え、ニーズ、そしてまた、その内容も多様化してきている中で、それらに対応なり、こたえることのできるような施設の充実も考えていかなければなりません。

滑川市では水産高校の跡地を大きな競技場にするというような計画も立っております。そういったことで、先ほどオレンジ・パークのことも出ましたけれども、あそこの、清水堂の新幹線の向こうのほうに、何か公園みたいになってパークゴルフ場をつくったんでしょうか、何度かあそこへたくさんの人たちが出て何かやっているのを自動車で通って見てきましたが、そういったものもできれば、やはりたくさんの方が利用するんではないかなというふうに思っているわけでありまして。

そういったことで、そういうスポーツに対しても、ほかのところではかなり力が入っているということで、すなわち、私の言わんとすることは、総合グラウンド、あるいは社会体育館、その他の競技場とかパークゴルフ場、そういうスポーツの施設を充実していく夢を持ちたいというふうに考えるわけでありまして。

結局はこの2つの、というのは文化財の保存、研究・調査・記録、展示・発表、団体の育成というような芸術文化活動の拠点となる場所をつくっていかねばならないんではないかなということ同時に、先ほど言いましたような学校体育施設の充実とともに社会体育、生涯学習というようなことにおいての、いろいろと環境整備も図っていかねばならない、あるいは指導者も育成していかねばならないというふうに考えるわけでありまして。

さて、先般、舟橋会館の利用のことで、ちょっと話を聞きました。その中で残念に思ったのは、トレーニング室が機器の故障や型が古くなったり何かで、あるいは指導者がいないということで、その利用が非常に低いという話でありました。あれをつくってほしいということについては、私もその中の一人であったわけですが、はっきり言いまして、やっぱり体育館があって、それと一体になってトレーニング室があり、週に何度かでいいですから指導者がつきますと、この利用が非常に活発になるのは目に見えており

ます。

それから、ゲートボールあたりにおいても、やはり冬場あたり、年配の方、気の毒だなと思うんで、社会体育館などができてピロティーに、その中に入り、今度コートをつくれば利用も高くなるかなということも考えます。

それで、これだけトレーニング室の利用が低いのであれば、残念ながら、やがてはそういったものをまた復活しますということで活動を休止して、これをほかの面で有効利用、多目的に利用していくということもいいんでないかなと。仮に言いますと、ばんどり太鼓やダンスやその他いろんな体を動かすようなことにおいて、あそこは床が大変しっかりしているし、大きな鏡もあります。そういったことに利用したり、あるいは簡単なものを陳列するようなこととか、もう一つは舟橋にもそれなりにいいところがあり、あるいはあったということで、そういったものを映像や音声で、スイッチを押せば、タッチパネル式で紙芝居や、あるいは漫画化されたような内容でもいいですから、いろいろと村の歴史やそういった埋蔵文化財あたりも時代的にその映像で見られるというようなこととか、そういったことを、今回村史もできるわけですから、そういう研究の中でまとめていただいて、整備していったほしいなというのであります。

そういったことで、今回は教育長に、今後どういう構想を持っておられるか、そしてまた、その中で内容の充実、施設等の充実というものの計画、第4次総合計画の中では漠然としておりますので、現在答えられることをお願いしたいなというふうに思います。

よろしくをお願いします。

議長（竹島貴行君） 教育長 高野壽信君。

教育長（高野壽信君） 塩原議員の、文化施設やスポーツ施設の充実についてのご質問にお答えしたいと思います。

「村民が村のことを知っているむらづくり」「村の歴史・埋蔵文化財などの周知」「老若男女の足腰がしっかりした体力づくり」「寝たきり、介護予防の推進」「参加者側にたったスポーツ環境の整備」「スポーツの団体間の連携強化」、これは、第4次舟橋村総合計画の策定に当たり、ワーキング部会で村の取り組む課題として取り上げられたものです。

そこで、これらを踏まえ、基本目標として、生涯学習・生涯スポーツ面では「図書館をはじめとした生涯学習施設の充実や、学習機会の拡充、提供に努めるとともに、スポーツ団体などと連携し、村民のスポーツへの参加促進を図る」、また、芸術・文化・交流

活動面では「地域の歴史・文化に対する理解を深め、文化財、伝統行事などの保護に取り組むとともに、住民の主体的な芸術活動を推進し、また国際交流をはじめとする各種交流活動の充実を図る」としています。

ご承知のとおり、この総合計画指針のもとに、各施設、各関係者が活力あふれるまちづくりの目標実現のため努力しているところでございます。

議員さんから、幾つか現在抱えている問題について指摘の上の質問でありましたが、文化施設、スポーツ施設につきましては、現在のところ、建設予定はございません。しかしながら、先ほど申しました基本目標を実現する上で、ご指摘の文化財の保存や村民のニーズに対応できる芸術・文化活動の振興を図るための拠点づくり、生涯スポーツの環境整備、指導者の育成など諸問題に関しましては、塩原議員が教育長としてかじ取りをされてこられました実績を踏襲しながら、改善すべきところは改善し、解決策を模索していきたいと思っております。

各施設の活用状況について、少しご報告いたします。

舟橋会館の年間利用者数は、会合を除きまして、平成22年度、月平均約4,200名の方が利用され、まさに舟橋村の生涯学習の拠点施設となっております。また、図書館におきましても、村内外を問わずたくさんの方々に利用されており、県内外から注目を集めています。ちょうど本日も静岡県におきまして、文部科学省主催の平成23年度生涯学習機関等の連携に関する実践研究交流会全国大会で職員が図書館の取り組みを紹介しております。

博物館も美術館も舟橋村にはありませんが、たくさんの利用者を引きつける要因には各施設とも第一義的な機能、すなわち図書館であれば資料の提供、資料の保存、レファレンスなどの大切な機能をしっかり果たしながら、副次的な機能として談話室などを利用し、各種展示会やおはなし会、コンサートなどを活発に展開するなどし、村民の諸要求・期待にこたえているところにあると思っております。

このようにお互いが持つものを利用し合い、欠けるものを補うことによって住民の生涯学習が豊かになります。この方策は、「日本一小さな村」という特色ある村づくりの上で必要不可欠であり、また効果的であると考えております。

今後、さらに各施設の諸資源を活用し合い、また施設間の協力体制、また各種団体とのネットワークをより強化充実し、場所の確保、整備などを進めてまいりたいと考えております。

なお、中学校グラウンドの夜間照明につきましては、今後、夜間開放に向け整備を進めてまいりる計画を策定する予定があります。

議員さんには、教育長として、これらの問題に取り組んでこられました。運営のノウハウを伝授していただくとともに、村長はじめ議員の皆様との協議の上で、今後とも諸生涯学習事業の調整を効果的に行い、小さな村だからこそできる特色ある村づくりに文化・スポーツの両面から取り組んでいきたいと思っております。

これをもちまして、私の答弁といたします。

議長（竹島貴行君） 塩原 勝君。

2番（塩原 勝君） 会館のトレーニング室の件についてちょっとお聞きしたいんですが、本来の質問とちょっと離れるかもしれませんが、今後どのように考えておられるかという点が一つであります。それと、先ほども言いましたいろんな文化、歴史、その他で幾つかのことが舟橋村としてはあるわけですが、そういったものを、先ほど言いましたように、映像、音声で、そこへ行ってスイッチを押せば大体わかるというふうにしていきたいわけですが、これについては何か構想がないか、この点、お願いしたいと思っております。

議長（竹島貴行君） 教育長 高野壽信君。

教育長（高野壽信君） 今ほどトレーニングルームについて質問がございましたが、現在のところ、トレーニングルームは今後どのように使うかというところではないかと考えております。

なお、文化財等並べるということについても話がありましたが、それは状況に応じてそのように取り組んでまいりたいと思っております。